

広土会新聞

第8号

2003.3.1 発刊

発行所 広島工業大学 広土会
〒731-5193 広島市佐伯区三宅2丁目1-1
TEL 082-921-3121

広島工業大学広土会の皆様へ



学校法人鶴学園理事長
鶴 衛

広島工業大学広土会が、8回目の新聞を発行されるにあたり、心よりお慶びを申し上げます。間もなく、新たな広土会メンバーが広島工業大学を卒業して行きます。この若い力が、広土会の益々の発展に貢献してくれることを期待しています。

さて昨今は、ワールドカップの開催、小柴昌俊さんと田中耕一さんのノーベル賞ダブル受賞、そして北朝鮮に拉致された5人が帰国できたことという嬉しいニュースがありましたが、それ以外は日本の社会にとって明るい話題は少なかったように思います。新しい年になっても国内の景気は依然として低迷が続いています。この景気の低迷は、広土会の皆さんの仕事にも大きな影響を与えていると思いますが、私立学校も例外ではなく、国公立大学との授業料格差などによる「私学離れ」につながっています。その他にも私学にとって頭が痛い現象が数多く出ています。まず、少子化の傾向が止まりません。全国で去年に生まれた赤ちゃんの数は、115万6,000人で前年より15,000人減少し、二年連続で過去最少を更新したそうです。さらに、日本全体で大学の数が増加し学生獲得競争が厳しくなるとともに多様な目的を持った学生が入学してくること、日本の教育界全体が抱えている学力低下の問題、国立大学が独立行政法人化して私学と同じ土俵に上がってくることなどです。

また、日本社会の中で急速に広まってきた「評価の時代」も様々な意味で私学に影響を与えています。まず、各大学への評価として、これまで義務づけられていた「自己点検・自己評価」に加えて、第三者による評価が義務となる方向での検討が急ピッチで進んでいます。この第三者評価制度は、文部科学省に認証を受けた認証機関から、大学教育研究水準の維持向上のために全学的な教育研究等の評価を受けるといったものです。これにより、教育研究への取り組み、学生からの人気度などで、大学間にランキングが生じる可能性があります。さらに近年の文部科学省の高等教育関連予算の中で、私学への補助金は、各大学へ平等に配分するものは抑制し、特色ある教育研究を推進している大学には手厚くするという競争的配分の色彩が濃くなっています。このような競争社会の出現は、広土会の皆さんが働いている業界では以前からあったことでしょうが、これまで倒産などといった深刻な競争がほとんどなかった教育社会では、大きな新しい波となっています。しかし、すでに定員割れを起こしている4年制大学が出てきているように、いよいよ教育の社会も本格的な競争時代に突入しました。

しかし、このような厳しい環境に責任を押しつけて、広島工業大学の元気がなくなるわけには行きません。競争的環境の中でこそ、本学は輝き続けていかねばなりません。そのために広島工業大学が目指す教育の方向は、学生に対する熱い「想い」を持って、「個性を尊重し、一人ひとりを生かす教育」を教育職員と経営事務職員とが相互に連携・協力して作り上げて行くことです。その際、特に教育職員にあつては、学生の個性を的確に把握し、個性に適合した多様な教育指導を行う必要があります。そのためには、個性を見出す努力と教育指導上の工夫に取り組まねばなりません。このことは、本学園の建学の精神『教育は愛なり』と教育方針『常に神と共に歩み社会に奉仕する』を具現化することにはほかなりません。国公立大学においても個性・特色のある教育の発揮に取り組んでいますので、これに対抗するために私学としては、建学の精神と教育方針に基づく独自の個性・特色ある教育を、手作りによって築くことに全力で臨まねばなりません。その意味でも大学の教職員が一致協力をして、熱い「想い」によって「個性を尊重し、一人ひとりを生かす教育」を実現することが必要です。

最新の学園情報として、学校法人鶴学園では、今年の4月より広島市佐伯区の新たな埋立地に『なぎさ公園小学校』を開校します。これにより本学園は、小学校から大学・大学院までを備えた総合学園となり、その特長としての小学校・中学校・高等学校の一貫教育、三校ある高等学校の総合理解と協力、高等学校・専門学校・大学の連携などをいかに発揮し、厳しい環境を乗り越えてさらに発展して行きたいと考えています。そしてこの発展は、広土会の活性化につながるのだと思います。

最後になりましたが、平成18年には、学校法人鶴学園は創立50周年を迎えます。広土会の皆様におかれましては、今後とも広島工業大学をはじめ、本学園への益々のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

土木の新たな挑戦



広島工業大学学長
櫻井春輔

広土会会員の皆様方におかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

いま、わが国においては、小泉内閣が構造改革を進める中で、不良債権や財政赤字などの負の遺産によって戦後経験したことのないデフレ状態が続いています。経済活動は依然として低迷し、2002年平均の完全失業率は、前年比0.4ポイント上昇の5.4%と1953年調査開始以来の最悪の値を示しています。建設業界は道路公団の民営化、ダムなどを含めた土木プロジェクトの縮小など、公共投資の減少によって非常に厳しい状況にあります。このような厳しい建設業界において、いま倒産と失業の嵐が吹き荒れています。帝国データバンクの調べでは、昨年上半期の建設業界の倒産件数は2961件で、バブル崩壊後最高を記録し、下半期も高水準が続いており、全倒産件数に占める比率は建設業が3割と最大です。

筆者は昨年の土木学会誌 (Vol.87, no. 3, 2002, pp-74-77) に「土木工学の新しい挑戦—地下空間におけるアート創造の可能性—」と題する記事を書きました。これは、飛騨高山の「ジオドーム高山祭りミュージアム」の建設に参画したことによって得た体験を基に、この厳しい建設業界においても土木技術者には多くのチャンスがあり、若い土木技術者が将来に夢をもつことを願って書いたものです。

このドームは飛騨の高山祭りで有名な祭屋台を展示するために建設された国内初の「岩盤地中式美術館」です。直径40m、高さ20mの半球状で、山腹の斜面下の入り口から山の中へ70m入ったところの岩盤をくりぬき建設されました。いま、このミュージアムは年間80万人以上の入場者を呼び、高山観光のスポットの一つになっています。屋台の上でカラクリ人形が動き、提灯に灯が入り、それが暗闇に映える光景は大いに幻想的です。このミュージアムは飛騨庭石社長の中田金太氏が建設したものであり、そこには彼が祭屋台製作の技術を長く後世に継承するために情熱を燃やして製作してきた平成の祭屋台が常時展示されています。

このような地下空間は不特定多数の人が出入りするため、「建築構造物」に分類されます。しかし、建築基準法が対象とする建築構造物でないため、(財)日本建築センターの「構造評定」並びに「防災評定」を受けることが義務づけられます。すなわち、この構造物は法的には土木構造物ではなく、建築構造物として位置づけられます。もちろん、岩盤を掘削することにおいては土木技術者の方が多くのノウハウを持っていることは言うまでもありません。たとえば、計測管理に基づく情報化施工は、岩盤掘削において最も合理的な施工法であることが、いまや土木では一般常識となっています。しかし、掘削中の計測結果によって設計の見直しを行う施工法は当初に完全な設計図がないことを意味しており、構造評定を受ける場合には問題があります。また、岩盤を掘削し、そこに美術館やコンサートホールを建設することは、たとえそれが建築構造物であっても建築家からは提案されないことも分かりました。なぜなら、建築は地上に立ち上げた構造物が対象であり、岩をくりぬいた空間は対象外のようなのです。このような状況を考えて、岩盤掘削に係わるプロジェクトにおいては、土木がもっとリーダシップを取らなければならないように思います。

地下空間に関する種々のプロジェクトに参画して感じたことは、このような岩盤内地下空洞の建設は土木分野における今後の大きなマーケットであるにもかかわらず、土木はほとんど営業活動をしていないように思います。土木の営業活動は役所が中心ですが、上に述べた地下空間などは民間に大きな需要があるように思います。土木技術者はいまや発想をかえて行動すべきです。言い換えれば、土木は従来の土木に執着している限り、若い人達から見放され衰退こそすれ、発展はないと思います。いまこそ、若い人達に土木の魅力を示さなければならぬときです。

経済状況が厳しい中では、限られたパイを皆で分け合うのも一つの選択肢ですが、減少するパイを分け合うことはもはや限界に達しているように思います。すなわち、これからは、土木技術者は異なるパイを取りに行くことが必要になっています。すでに、建設労働者の介護ビジネスへの転職、さらに、農業や医療、観光・娯楽など、地域生活に根ざした産業を振興していくことも提案されています。いま、わが国の建設労働者は600万人、全就業者の一割を占めると言われています。それだけに、この人材をどう活かしているかで、日本の将来の経済成長が大きく左右されることになるでしょう。このように、今後は土木が異なる業種に進出することが重要です。しかし、上に述べた高山ドームのように、建設の分野でもまだ夢をもって新たに挑戦する分野のあることを強調したいと思います。

いずれにしても、土木技術者は発想を変えて新しい分野に踏み出さなければなりません。さもないと土木はいずれまったく魅力のない前世紀の学問になってしまうでしょう。しかし、土木工学はCivil Engineeringの名のとおり、文明に関するあらゆる分野をカバーする無限の可能性を有している学問です。もっと柔軟に他の分野との協調を図ることにより、若い人達を惹きつけ得る魅力あふれる土木工学に変身できると信じています。若い人達に土木のロマンを示すのも現役の土木技術者の責任だと思います。さあ、発想を変えてそれぞれの分野で新しい土木に挑戦しようではありませんか。

退任挨拶



辞任挨拶

前田 文之先生

5年前に広島工業大学に赴任し、自分の意志とは無関係に建設工学科に配属され、他の学科の授業も持ちましたが、多くは建設工学科の学生に対して、工学基礎としての数学の授業を担当して来ました。建築とか、土木とかについては、それ以前は一般の人々と同程度の知識や関心しかなかったわけですが、数学の授業のみならず総合ゼミにおいて、学生の動機付けが必要ということで、建築・土木でいかに数学が使われているか勉強させられ、いくらかの新しい知識と物の見方に触れることが出来ました。

学科の先生方には、いろいろと気を遣っていただきましたが、元々関心が殆どなかった分野の人々の間に入った違和感は最後まで拭いきれず、広土会にはそっぽを向いたまま過ごしてしまいましたので、このように退任の挨拶を書くのは忸怩たるものがあります。

5年間ずっと感じ続けていたことは、多くの方が折に触れ言われているように、今のカリキュラムを含めた教育のシステムは、学力差の大きい学生群に対応していないため、どう工夫しても、ケアが十分に出来ない、というもどかしさでした。補完教育とか、学習支援室とか、それなりの効果はあるでしょうが、やはり対症療法的で限界があります。教育システムにも「構造改革」が必要です。それには、2年くらいかけて十分な議論がなされる必要があるわけですが、これまでの経過を見る限りそういう体制は出来そうにないですね。今から5年後、見るべき「構造改革」が進んでいたら、驚きをもって拍手をおくることにしましょう。

就職状況



平成14年度の就職状況

建築工学コース就職委員
高松 隆夫

年々深刻さを増す建設業界の不況はいつ好転するか誰も判断できない状況です。そのため、企業にあっては出来るだけ人件費を削減する方向に進んでいます。ほとんどの企業は新卒採用予定者数を減少させることはあっても増加させることを考えていません。

この様な厳しい就職環境の中で、それぞれの学生が希望に合った企業を探しだし就職試験に挑戦して、学生全員が内定通知をもらうことは不可能に近い試みです。その試験に対して今年度の4年次生は3年次の2月から積極的に立ち向かい11月末までに就職希望者のほぼ全員が内定を得ることに成功しました。就職委員としては喜ばしい結果に大変満足しています。

現在の4年次生は大学入学時から大変真面目なクラスであると評判が高く、取得単位数も平均点も他のクラスと比較して抜群に優秀でした。しかしながら、積極性や指導性の面で少し低めの評価がなされていました。そのためか、3月や4月の段階で内定を得ることができた学生は昨年度よりも少ない状況でした。5月からは、ほとんどの学生が2回目あるいは3回目の挑戦となり面接試験に慣れてきて、自信を持って自己主張が出来るようになり、その後の試験ではほとんどの学生が合格するようになりました。

今年度の卒業予定者は72名です。その内、大学院進学者は4名、就職内定者は63名（建設業42名、設計事務所9名、製造業5名、サービス業4名、公務員3名）、進路未定者5名です。今年度は大学院進学者が例年と比較して少なくなっています。就職先は例年通りの傾向を示しています。

本学学生の特徴は真面目さです。それが現在でも実社会において高い評価を受け続けていることを再確認できました。今後も本学の良き伝統を継承すると共に

新しい科学・技術に果敢に挑戦できる多数の技術者を社会に輩出するよう努力する所存です。先輩方の益々のご支援・ご鞭撻をお願い申し上げます。



建設工学科(社会建設工学コース)の就職状況

建設工学科(社会建設工学コース)就職委員
石井 義裕

建設業界は例年にもまし深刻な状況となり、卒業学生の就職内定状況も厳しくなっています。今年度の求人数・企業件数は昨年度より減少しており、業界全体として影響の大きさを感じます。本年は求人倍率が3.8倍となっており、数年前の約5倍に比べ、求人が明らかに減少しています。学生は春休みから実質的に就職活動に入りますが、企業からの求人は早いところでは1月・2月頃から始まり、5月・6月頃までが多く、7月を過ぎてからの求人は多くはありません。内定状況も5月・6月にピークを迎えて、8月に入ってから就職活動は非常に厳しいものとなっています。本年度の社会建設工学コースの卒業予定者は97名で、就職希望者86名、進学希望者11名となっています。平成13年12月末現在での進路決定者は74名となっています。進路決定者の就職先は、建設業：約57%、建設サービス業：約28%、製造業：約7%、公務員：約4%、その他と大半の学生は建設関係の進路を選択しています。公務員を希望する学生は例年同様10名前後いますが、採用は一層厳しくなっており、希望通りの公官庁への就職は難しくなっています。

大学院には、ここ数年卒業生の10%程度の学生が進学しています。今年度の場合、現時点で本学大学院へ5名、他学大学院へ4名の計9名の進学が決まっています。高度な技術・知識の習得を目指す学生が増えています。特に将来、設計や研究開発方面を目指す学生は大学院に進学することを考えて欲しいと思います。ただ、本学で学んだ優秀な学生が国公立大学の大学院に流出している現状は残念に思います。

就職活動における最近の傾向として、企業における求人の早期化や就職活動のエントリー方法の多様化に伴う就職活動形態の変化が顕著です。大学においても3年生の10月以降に毎月のように各種就職セミナー・業界研究・講演会などを実施し、就職へ向けての意識を明確にしたり、就職活動準備の指導を行っています。2月～3月には就職・進学懇談会を開催し、春期休業中に学生が企業訪問や入社試験に積極的に取り組めるようにしています。採用形態も従来の「大学推薦」だけでなく、「大学推薦・自由応募併用」「自由応募のみ」「インターネットを通じてのエントリー」等の企業が増えており、大学・学生とも就職に対する意識の変革を求められています。

企業の学生採用については、年々厳しい採用状況になっています。大学推薦を得ても、SPⅠや筆記試験で基礎的な学力が不足している学生は、第1段階の合格が難しいようです。予めSPⅠ対策や専門分野について積極的に準備することが重要です。また、十分な面接試験の練習を行い、本に書いてあるとおりではなく、自分の言葉で自分の意見を述べる事が出来るようにトレーニングをしておくことが重要です。来年度に就職を希望する学生は十分な準備を行った上で、積極的に就職活動を行って欲しいと思っています。

研究室だより

ミクロの世界と生態系



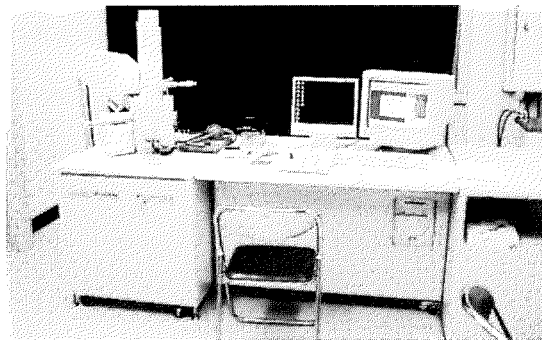
社会建設工学コース
二神 種弘

地球が46億年前にでき、それから約10億年して（今から36億年前）生物の共通祖先の微生物が発生して以来、いろいろな生物群集が出現しております。生物群集は、植物群集、動物群集および微生物群集からできており、これらを取り巻く環境と一体で生態系を構成しております。当研究室は、「建設工学にもっと生物学を！」をモットーに研究を進めております。特に、微

生物の有効利用と地盤・建設構造物の微生物劣化に重点を置いて研究しております。

昨年3月に、文部科学省の補助で、待望の分析機能付き走査電子顕微鏡が総合研究所の生物分析・観察システム室に設置され、研究環境が整ってきました。また、民間会社の無名の田中さんのノーベル賞受賞は、大きな勇気を与えてくれました。「次は地方の私大から」と夢を膨らませ、ノーベル賞（飲一める賞???）目指して頑張っております。

ちなみに、平成14年度卒研テーマを以下に記します。1）有限要素線形計画法による被圧地下水の最適制御に関する研究（石川尚文、松浦仁志）、2）山地斜面生態系の富栄養化による地盤の変化に関する研究（市木雄介、馬越康次、新居田拓也、宮内敏光）、3）差分線形計画法による被圧地下水の最適制御に関する研究（丸小靖弘、吉原史章）、4）極楽寺山周辺の植物ガイドマップと生物図鑑の作成（上野修一、佐々木純志）、5）劣化建設構造物に生育する微生物の観察（宗政信良、山口智和）



元素分析機能付き走査電子顕微鏡

大学祭学科展

学科展について

建築工学コース
庄田 朋幸（3年）

工大祭前日、夜遅くまで準備作業に追われていた学科展でしたが、今回も無事に終えることができました。広土会の学生役員がテーマ別で分かれ、いかに一般の人に分かりやすく建設工学というのを知ってもらうかそれぞれに頭を悩ませていました。その成果も現れ、一般の人にも結構分かってもらえるような展示内容だったと思います。

今回の学科展のテーマは以下の5つでした。

- 1.トラス構造について
- 2.コンクリートについて
- 3.測量器具の展示と測量方法について
- 4.建築の写真展示
- 5.大学院生による実験の実演

展示の内容は、縮小模型を用いての説明や、簡単なQ&A、図や色文字を使った解説、実物の器具の展示など、各テーマごとに色々工夫していました。

2日間の展示で約200人もの来客数がありました。ジュースとドーナツのサービスも客引きの要素となり、サービスメインで来て、ついでに少し展示を見て帰られる人も結構おられました。建設工学についてふれてもらった面からしてみれば結果的によかったと思っています。中には、疑問に感じられた箇所を真剣に質問されている人もいましたし、ドーナツを食べながら展示内容についておしゃべりしている人の姿も見られ、なごやかな雰囲気学科展内に広がっていました。

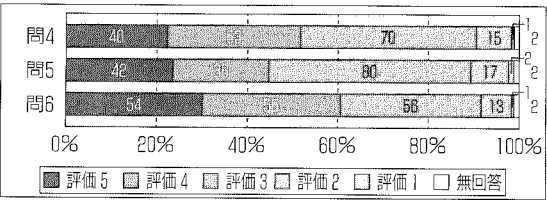
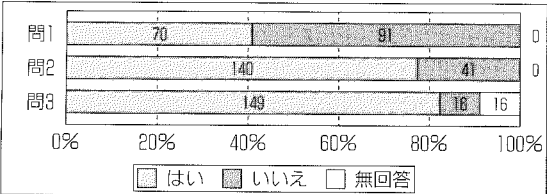
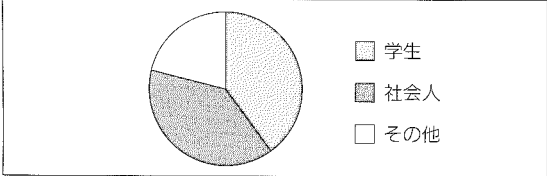
今年の学科展は昨年の反省点も改善され、展示場までの看板の数も増え、道に迷う人も少なくなりました。そして文字が多過ぎて分かりにくかった展示作品も、先ほど述べたように比較的理解しやすいものに工夫されました。しかし、一つ言わせてもらおうと、工大祭メイン会場からもう少し近い場所にすると、まだ出入りしてくれる人の数も増えたのではないかと思います。

今年の学科展で得た教訓は大いに来年に生かされるでしょう。来年はどのようなテーマを取り上げるかは

まだ分かりませんが、今年以上により良い学科展になることを期待しています。

2002年大学祭学科展「私たちの生活の基盤」アンケート集計結果				
	学 生	社会人	その他	合 計
11月2日	44	21	13	78
11月3日	35	44	24	103
合 計	79	65	37	181

	男	女	合 計
11月2日	43	35	78
11月3日	58	45	103
合 計	101	80	181



- 【問1】工大祭ははじめてですか？
はい 70 いいえ 91 無回答 0
- 【問2】建設工学科の学科展ははじめてですか？
はい 140 いいえ 41 無回答 0
- 【問3】来年も学科展に来てみようと思いますか？
はい 149 いいえ 16 無回答 16
- 【問4】展示はおもしろかったですか？
⑤40 ④53 ③70 ②15 ①1 無回答 2
- 【問5】建設工学科についてよくわかりましたか？
⑤42 ④38 ③80 ②17 ①2 無回答 2
- 【問6】パネル展はわかりやすかったですか？
⑤54 ④55 ③56 ②13 ①1 無回答 2



オリゼミについて



オリゼミについて

建築工学コース

久保 和也 (3年)

建設工学科のオリゼミは、クルーザー「銀河」に乗って瀬戸内海を回遊し、日常見慣れない橋の下の視点から、来島海峡大橋、大三島大橋、多々羅大橋など、建設を学ぶ者にとっては非常に興味のもてる、日本を代表する橋を見学しようとする工学的な企画でした。

今回、私は指導学生の立場で新入生オリエンテーションゼミナールに参加しました。2年前に私が新入生としてこのオリゼミに参加したときは、入学してまだ大学生活になれてない頃ということもあり、私の興味は橋梁見学よりも友人作りの方に注がれていました。よって、見学内容の記憶は非常に薄いものになっていたのですが、今回は2回目ということもあって、橋を見学することに集中することができました。

一方、主役である新入生の方とは言うところ……やはり橋梁見学よりも友人作りの方に一生懸命のようでした。

た。一番熱心に橋を見学していたのは、同伴していた指導学生達や、先生方達でした。私は、「2年前と同じ光景だなあ。」とつくづく思いました。

私たち指導学生は、各自分担して新入生達を引率しただけでなく、新入生たちの親睦を深めるために行われた、ピンゴ大会の司会進行も行いました。指導学生達が積極的に新入生達を盛り上げていった甲斐もあり、それなりに新入生達も楽しんでくれているようでした。商品は私が前日に厳選してそろえたのですが、新入生達の反応は……いまいちだったようです。来年はもっと喜んでくれるものを用意しようと思います。そして引率のときには上級性らしく装っていた指導学生達も、昼食の豪華なバイキングにはさすがに「我先に！」と、がつついていました……まあ、これもこれから一人暮らしを送っていく新入生にとっては、いいサバイバル勉強になったのかも……？

そんなこんなで、なんとか無事……？に今回のオリゼミを終えることができましたが、クルーザーを降りていく新入生達の顔を見てみると、みんなこれから大学生活をエンジョイしていくうえでの新たな友人を見つけることができたのか、とてもいい笑顔を見せていました。そういう意味では、このオリゼミは新入生達にとって、これから大学4年間を送るためだけではなく、一生付き合っていくことになるかもしれない友人を作るきっかけとして、とても意義のあるゼミナールであると思います。

講演会



土木のロマン

建設工学科

津川 綾子・鈴木 由美子 (1年)

「土木のロマン」の講演は土木技術者を第三者の視点から取らえたものであった。私たちは講演者の田村喜子さんは土木技術者だと思っていたので、大学は文学部で学んだということを聞いて正直驚いた。田村さんは明治時代に行われたプロジェクトである琵琶湖疏水の建設を「京都インクライン物語」にまとめられたことをきっかけに、土木について感心を持たれるようになったとのことである。また、田村さんは今まで土木についての知識がなかったことを恥しく思うとも話された。特に、土木に携わることのなかった田村さんがなぜこんな風に感じられたのか不思議に思った。土木建設というのは私たちの生活をする場の基盤となっている。あまりにも身近であって当たり前となってしまう。だから、疏水のような建設物は何が目的で、誰が建設したのか、これが建設されたために私たちの生活はどうなったのかを考える事はないのである。土木とは、私たちの生活に密着していて、土木技術者がいない限り今の日常生活を送ることはできない。しかし、普段はただ橋や道路など形あるものだけに気をとられ、そこに注ぎこまれた技術者の努力や思いは理解されることはないと思う。今回の講演はその気づかれずにいた技術者の思いにスポットがあてられたものであり、田村さんによって、その重要性に気付かされた。これから技術者を目指す私たちは、過去の技術者たちの思いを理解し受け継いでいかなければならないと思った。田村さんの講演を聞くことによって、技術者とその人たちの持つ思いの重要性を考える機会を与えられたので、この講演を聞くことができて良かった。

インターンシップ



インターンシップの体験談

社会建設工学コース

松浦 範佳 (3年)

インターンシップに興味を持ち、実際に動き出すまでにそう時間はかからなかった。それというのも、学生時代に社会での実経験を得るという絶好の機会であ

ると思ったからだ。その頃私は、そろそろ将来のことを考え始めようと思って、まずは自分でいろいろ見てみたいと思っていた。今ふりかえって、夏のインターンシップで自分が見てきたことは、学生の今の自分とこれからの自分の中で大きな財産となった。

私が、実習でお世話になった大本組（大本・元川JV四幡統合専門作業所）で行った実習内容は、現場におけるの安全に対する教育、測量（光波・レベル）、盛土J張、PH測定など実際簡単な作業の手伝いと現場におけるの作業の流れの中で、現場監督について周り、現場の技術や工程・施工方法など学ぶのが主な内容であった。私はこの実習を通じて、2つのテーマを持っていた。1つは現場を体験することにより、社会・企業の構成・仕事の流れを学ぶ。土木現場での仕事内容を学び、現場監督ならび、民間企業の仕事の内容や実情を実際自分の目で見てみ、見極めたいというものだった。

実習1日目、不安な私を現場所長の「難しい作業を覚えて帰るよりも、自分で分からないことは聞いて、見て、現場監督とはどういうものか、現場での仕事はどのようなものを学んで帰りなさい」という一言で、ずっと肩の力が抜けた。

大本組の社寮に寝泊りし、昼は現場での実習、夕方はまた寮に帰り次の日に備える。そんな生活の中で大学生活とはまったく無縁の生活を送っていた。私は広島で一人暮らしをしている分、まだ洗濯やそうじなどは、苦にはならなかったが、自分の知らない土地でまったく初めての体験をしてみると、1日1日の実習生活におけるのテーマをもって取り組むようになり、実習で学んだことはすべて吸収してやろうという気持ちで毎日がとても充実していた。

測量やPH測量などの作業より何より、自分の収穫になったのは、土木工事の最前線で、多くの作業員や地域の人達とのコミュニケーションを初め、発注者との接渉するなど、人とのつき合いが何より大切だということが分かったことである。また良いものをより安全に迅速に行なうという現場での意識を学ぶことができたことは、将来土木に関わっていこうと思う私にとって決して忘れてはいけないことだ。

実習前、漠然とこれからの自分の社会生活を考えていたが、実習を終えてもう一度自分の将来設計を見つめ直し、考えてみたいと思った実習であった。

右も左も知らない私に、さまざまなことを教えていただいた現場の人々にとても感謝したいと思う。

第15回「全国土木系女子学生の会」に出席して



第15回「全国土木系女子学生の会」に出席して

建設工学科社会建設工学コース

佐藤 寿子 (4年)

2002年11月16～17日に、全国土木系女子学生の会総会が関東学院大学 葉山セミナーハウスにて行われました。

「土木と女たち」というテーマで、全国から参加した他大学の女子学生と一緒に土木のこと、自分達のことなど、たくさん話をしました。

参加大学は、以下の15大学でした。

日本大学・大阪市立大学・東北大学・愛知工業大学・広島大学・武蔵工業大学・信州大学・大同工業大学・長岡技術科学大学・横浜国立大学・中央大学・岐阜大学・佐賀大学・関東学院大学・広島工業大学

第I部…「どのような土木なら女性の観点をいかにせるのか」をテーマに、社会で働いておられる3人の女性の方から話を聞きました。

・澤田恵美さん

東京大学在学中から女子学生の会に積極的に参加され、卒業研究では、女子学生の会をテーマとして、「土木界における女性技術者の将来展望」についてまとめられました。現在は、東京工事事務所事業創造課に勤務されています。

・高嶋美樹さん

関東学院大学工学部土木工学科を卒業されました。学生のころは「水防組織の地域防災力に関す

る考察」テーマに取り組みました。卒業後は、大王建設株式会社東京支店工事部に入社されましたが、退社され、財団法人日本道路交通情報センターに移られました。現在は、東京事務所九段センターで放送業務を担当されています。

・ 國司嘉子さん

早稲田大学理工学部建築学科を卒業されました。在学中は、「公園の中の図書館設計」に取り組みました。その後、株式会社建設技術研究所に入社され、出産・育児を経験し、現在は事業推進本部ダム統括部に勤務されています。

3人の方は、入社してから今までの仕事内容、今までにつらかったこと、女性からみた土木・建築などについて話して下さいました。

第II部…ワークショップ

〔ワークショップとは様々な人が共に考えを深めていくプロセスで、異なる立場の人たちがお互いの考えや感じ方を知り、理解を深め、共有できる新しい価値観やビジョンをみいだしていく成果と関係作りのこと〕

井上工業㈱代表取締役社長、日本建設コンサルタント株式会社代表取締役社長、国土交通省河川局河川環境課 課長補佐の3人方をアドバイザーとして招き、愛知工業大学・長岡技術科学大学・関東学院の先生方と一緒に話し合いました。

私の8班には大学1年・2年・3年・4年・大学院生がいました。

- ・1年生はまだ、土木について解からない部分が多いので、先輩達の話をとくさん聞きたいそうです。
- ・2年生は専門的な学習を始め、これから自分のやりたい事を見つけていくそうです。
- ・3年生はこれからの就職活動の不安をいっぱいもっていました。
- ・4年生は今までの就職活動の経験を話していました。
- ・大学院生は今までの学生生活の話をしてくれました。

それぞれの立場で土木について率直な意見を話し合い、話していききました。

その後、それぞれまとめた意見を発表し、アドバイザーの方々の意見を聞きました。

意見としては、

- ・最近では、大学の中で先輩・後輩の交流が少なくなってきた。もっと大学内外で情報の交流が必要ではないか…
- ・学生は本当に時間があるので、土木に限らずいろいろな経験しておくべき。
- ・今の学生は、文章が読めない・書けない・プレゼンができないと言われました。
- ・働くことに関して、女性の考えがあまり。意識の中でずっと働きたいと思っていない)
- ・女性が働きやすい環境とは…

：



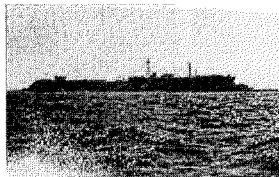
寺内タケシさん

第III部…〔関東学院大学で講師をしていらっしゃる寺内タケシさんとブルーローズによるコンサートを開きました。〕

橋・水・港・鉄道に関係した曲を演奏してくれました。また曲当てゲームなどをして楽しみました。

第IV部(17日)…東京湾口航路見学クルーズ(第二海堡の見学)

第二海堡とは東京湾と浦賀水道の真中あたりにある首都圏でも最大級の軍人廃墟です。当時の陸軍が明治22年より大正3年まで25年の歳月と約50万人を動員して推進8～10mほどの海底に砕石を落として作った人工島です。見学の風景は以下のようなものでした。



近づく第二海堡

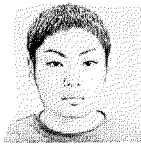
約80人の他大学の女子学生と一緒に1泊2日過ごしました。その中で、たくさんの意見を聞く事ができてよかったです。最初は一人で参加していたので寂しかったですが、帰りには別れることで寂しいいっぱいになりました。

この2日間を通して、自分がこの4年間、いかに狭い視野でしか物事を考えていなかったのかと思い知らされました。これからの生活において、貴重な体験ができたと思います。

後輩達には、学生生活のうちに大学内外問わず多くの経験をし、たくさんの人と出会い、多くの意見を聞き、勉強に遊びにがんばって欲しいと思いました。

卒業生から

「大学生活を振り返って」



社会建設工学コース(米倉ゼミ)
信田 修壮(4年)

「光陰矢の如し」と言いますが、ほんとうに月日が経つのは早く、私がこの大学に入学してから、もう4年になろうとしています。

最近では、卒業研究に追われ、毎日を慌ただしく過ごしているのですが、卒業を前に、ふと、この4年間で振り返ることがしばしばあります。

入学したてのころは、高校までの生活とは一変し、いろいろなことを自分でこなしていかなければならないことに、少し戸惑いを覚えました。それまでになかった多くの「自由」を手に入れる一方で、「責任」という言葉もその重みを増し、今まで自分がどれだけ守られていたのかを痛感しました。

大学の講義は、学びたいことや将来の役に立つことなど、自分で選びとっていきますが、専門的な講義はやはり難しく、「好きこそものの上手なれ」とはいかないことばかりでした。挫折しそうになりながらも、なんとか習得したという感じです。自信はあまりありませんが、入学したての自分からすれば、かなり専門性が高まったのではないかと考えています。

また、大学で多くの友人と出会い、ほんとうに貴重な時間を一緒に過ごすことができました。やんちゃの度が過ぎることも時にはありましたが、思い出すのは、そういった記憶ばかりで、もっと彼らとたくさんやんちゃをしたいという気持ちになります。遠出をしたり、明け方まで語り明かしたりと、学生時代というこの時期に、彼らとともに過ごせたことは、わたしにとってとても大きな喜びです。これから、別々の進路を歩むことになりますが、彼らとは一生付き合っていくと嬉しいです。

振り返ると、長いようで短い4年間でした。わたしは、卒業後、山口大学の大学院でさらに専門性を磨いていくつもりです。この大学で得た、たくさんのものを胸に、また新しい環境で大きく成長していきたいと意気込んでいます。多くのものを与えられた、この学生時代を、わたしは心から尊いと思います。そして、わたしとかかわってくれた多くの人に、「ありがとう」と伝えたいです。



「大学4年間の中で」

建築工学コース
香川 修三(4年)

私が、広島工業大学に入学して4年が過ぎようとしています。入学したときは4年というのがこれほどあっという間に過ぎていくとは思っていませんでした。大学生活では、勉強、アルバイト、ボランティアと様々なことを体験しました。それぞれ、大変ではあっ

たけれど今思い返してみるといい経験ができたのではないかと考えています。その中でも特に、卒業研究での実験が印象に残っています。実験準備に2ヶ月、実験に1ヶ月とかなり大変でした。しかしゼミの仲間と協力して計画を立て作業をし、ときには討論し実験がよりよいものになるよう努力しました。その結果はじめは実験自体できるのだろうかかと不安を持っていた実験でしたがかなりいい結果を得ることができました。そして、ゼミの仲間と喜び合いました。この実験の数ヶ月の間はかなり大変で嫌になることもありました。しかし、充実した時間を過ごせたと思うています。

大学生活では、高校と違い自分を注意してくれる人はいません。また、自由に使える時間が多いことも高校と違うところだと思います。これは、大学生活において自分の行動に責任を持たなければならないことを意味していると思います。諸先輩方に聞いたことなのですが社会人になってから勉強する時間を確保するのは大変だと聞きました。当たり前なことなのですが勉強をすることも大切だと思います。また、大学生活だからこそできることをするのも大切だと思います。つまり、自由な時間をどれだけ有効に使うかが重要であると思います。

私は、高校も工業高校の建築科であったため、大学と高校を合わせると7年間建築の勉強をしてきたことになります。そして、大学では建築の面白さを改めて知り自分のやりたいことを見つめることができました。これまでに学んだことを無駄にしないためにもこれからも努力し続けたいと思います。是非後輩のみなさんには何か自分のやりたいことを見つけてそれに向かって努力し充実した大学生活を過ごしてください。

最後になりましたが、いままで暖かく見守ってくださった先生方、そしてこの大学に通わせてくれた両親に深く感謝したいと思います。

就職活動について

就職活動について



社会建設工学コース
石飛 満利(4年)

私は技術系土木の地方上級と国家2種をうけました。私が公務員を志望した理由は、いろいろありますが自分にとってよりよい人生が送れると思ったからです。大学2年ぐらいから公務員試験を受けようかなあと思い始め最終的に決めたのは去年の1月の始めでした。大学生活で勉強ががんばったわけでもなく、成績が良かった分けでもなかったのが公務員試験へ向けての準備期間の無さに初めからあせっていました。1月の頭から勉強し始めて、それまでの生活をすべて変えました。夜型だった生活を昼型に直し、それまでやっていたバイトをやめて1月の終わりから公務員の専門学校に通い始めました。私は三年の後期にはほとんど授業がなかったので専門学校では教養の授業が多く受けられる昼間に授業をとりました。専門学校で授業がある日は、専門学校の自習室で朝の10時から夜の8時まで勉強して、授業がない日は、大学の図書館で、ゼミ室が使えるようになった3月からはゼミ室で勉強していました。勉強時間は平均で一日10時間、週1で勉強をしない日を作りました。勉強方法ですが、専門は大学で習ったことを復習して、教授から問題をもらって勉強しました。書店には技術系の参考書が非常に少ないため資格取得専門学校で行われる模試をうけて問題の傾向を知るとともに、勉強をしました。教養は専門学校の授業を中心に、自分で数冊の参考書を買って勉強をしました。専門学校に通ってる人はフリーターが多く、考えていた以上に勉強に時間をさいています。そんな人々と接することで刺激を受けることができました。公務員試験は捨て科目を作らないことが受かる秘訣とよく言いますが、私の場合勉強の取りかかりが遅かったため点が取れそうな科目を重点的に勉強しました。結果的に何も手を着けてない科目をたくさん作ってしまいましたが運よく島根県庁と国家2種に合格することができました。公務員試験は試験を受けて

から結果が出るまでに時間がかかり、長期間にわたります。回りの友達の就職がどんどん決まって行くので精神的にとてもつらかったです。私は何人かの公務員志望の友達と一緒に勉強していました。今考えるとこれが一番良かったとおもいます。一人で勉強していると気がめいってくるし、一人でわからないことがあっても他の人に聞けるので勉強の効率もあがります。自分がある環境が自分にこんなにも影響することを始めて実感しました。



就職活動について

社会建設工学コース
久保 毅和（4年）

この度私は、道路建設N企業に内定をいただきました。この会社に入定をいただくまでの道のりとして、N企業を受ける前にF企業（ゼネコン）を受けていました。

F企業には先生から、「企業説明会があるので行ってみないか」と言われ、説明会に参加しました。参加した後、受けてみようと思い一時試験を受け、合格して二次試験の東京本社での重役面接に進むことができました。しかし、残念ながら内定をいただくまでには至りませんでした。

後日、就職担当の先生に結果の報告にうかがった際に、「N企業を学校推薦で受けてみないか」と声をかけていただき、ゼミの先生と相談をして受けることを決めました。履歴書を提出し、広島支社での一次試験の連絡をいただき、受けるまでの日数の関係で会社訪問をすることができませんでした。しかし、インターネットのホームページで企業について調べ、特徴やどのようなことに力を入れているかを調べました。また、就職部で今までの試験の問題を見てどのような傾向の問題が出題されるのか調べました。このときに作文のテーマが分かり、内容を考えることができたのはかなり大きかったです。

そして一次試験の企業独自の一般常識試験と作文、面接を受けました。その結果、東京本社での重役面接に進むことができました。この面接は一次試験のそれよりも大きな緊張に襲われました。しかし、いざ面接となると、思っていた以上にはっきりと話すことができ、受け答えもほとんどつまることなくできました。これは、先生に言われ、面接で話すことをあらかじめ考え、練習していたことで最初の質問にスムーズに答えることができたおかげで、いい意味で力が抜けたのだと思います。また、F企業の不合格の報告を受けたときに会社の就職担当の方から、不合格の理由として、面接の時の押しが弱かったと言われていたことを意識し、一言一言を大切に力強く話したことが良かったのではないかと思います。

そして面接を受けた翌日、内定の報告を受けました。私がした就職活動で一番大きな力となったのは、早くから活動をしていたことだと思います。先生の薦めで、早くからSPⅠの練習に取り組みました。また、履歴書を早くから作っておくことで、直前になって慌てて考えて内容がおかしくなったりすることを防ぐこともできました。そしてその内容から、面接での受け答えの内容も事前にある程度考えておくことができました。このことで、今回のように比較的時間の少ない状況でも、いい結果を得ることができたのだと思います。



「就職活動」

社会建設工学コース
南出 裕之（4年）

私が就職活動を体験して苦労したことは、筆記試験の勉強と履歴書の作成と論作文を書くことでした。

まず、筆記試験の勉強については、三年生の初めには一般常識とSPⅠの問題集を購入して勉強していました。暇を見つけて勉強しようと考えていましたが、授業やレポートなどで忙しくなかなか暇が見つけれず、思うように勉強ができませんでした。それでも、友達と一緒に勉強したり、お互いに問題集を交換したりして少しでも多くの問題にチャレンジしました。ま

た、学校が行う就職ガイダンスを受講して、何回か模擬試験を受けました。その結果が返ってくるたびに、もう少し勉強しておけば良かったなと思い問題集を最初から勉強しなおしました。

次に、論作文の作成については、自分のことを書くということと文章を書くということの難しさを実感しました。自分のことが分かっている人には簡単なことかもしれませんが、そうでない私にとっては非常に難しいことでした。そして、最近の若者に多いのですが、自分の考えを分かりやすく上手く文章にすることができないという問題がありました。このようなことを上手にするには、普段から新聞や本などを読んで文章を作る力を付けておくべきだったと思いました。履歴書や論作文を書き上げるのに何回も先生のところを訪れ、文章の訂正やアドバイスをいただき、やっとの思いで仕上げました。

それに対して、面接に関しては、特に練習といったことはしませんでした。普段から人に対しての言葉使いには注意していて、接客をするアルバイトをしていたので自然と丁寧な言葉使いが身につきました。そして、実際の面接の時では、できるだけありがちな答えを言わないようにし、面接官の人に少しでも自分がどのような人間であるか分かってもらうために個性のある答えをするように心がけました。

その他、就職活動をしていく中で様々な経験ができました。合同の会社説明会があり、二日目にある企業の説明を受けようと思ったら、「今頃来るなんて遅いよ。」と怒られたこともありました。

今、就職活動を振り返ってみると、多くの人と出会うことができ、いろいろな人に支えてもらって就職活動ができたので大変良い経験ができたと思います。



就職活動について

建築工学コース
山本 功司（4年）

就職活動というものは、これからの人生に大きく関係することなので、なんとも言えないプレッシャーを感じました。そんな中、ライバル達に勝つための自分探しを始め、大変根気と努力を用するものとなりました。

3年生の夏頃、何か始めなければという不安が生まれ始めました。就職ガイダンスで、私はSPⅠの重要性を感じました。その時私は、武器を持つことで自分の中にあった不安と焦りを鎮めることができたことを、最近のことのように覚えています。秋頃になると、私は積極的に就職部へ足を運ぶようになりました。受けたい会社の見当もついていなかった私にとって、就職部へ足を運ぶことは大変意味があったと思います。また、担当教員との相談により、自分がどのような職種に就きたいのかが見えてきました。目標ができることにより、就職活動の大変さを忘れ、努力しつづけることができました。

また、合同説明会、OB訪問など積極的に活動することにより、企業の皆さんの、仕事に対する熱い思いを感じることができました。3Kと言われる建設業の中で、その中にやりがいを持たれて働かれていることに対し、自分の進み道に迷いが無いことをあらためて実感できました。

このように、積極的に活動することにより、多くの収穫を得ることができ、諦めずに努力することは、希望通りの企業へ就職するためには必要だと思いました。

御指導を頂いた諸先生方や就職部の方、先輩、友人に心から感謝しています。

支 部 だ よ り

第15回広土会関東支部総会報告

関東支部長
梶野 良夫（2期生）

表記総会が夕刻から雨に煙る東京お茶の水駅近くの

「東京ガーデンパレス」において、広島から島広土会会長をお招きし、会員17名が集まって開催されました。内容としては、2期の梶野支部長より事業報告と会計監査結果が報告され承認されました。島先生からは大学の状況そして会員からは近況報告があり楽しいひと時を過ごしました。世の中厳しい状況が続きます。広土会会員も例外ではありません。しかし、皆さんががんばっていることを認識し、新たな活力が出てくれたのではないかと期待しています。会は6時から8時30分で終了しましたが、まだ心残りの何人かは先生と2次会に流れ、会員行きつけのよいところでカラオケに熱狂しました。今回参加した皆さん如何でしたでしょうか。また、今回都合によりこれなかった皆さん次回も開催しますのでご参加ください。これからお仕事も下半期、仕事も忙しくなると思いますがお体に留意してお過ごしてください。

なお、今回先生が大学の資料（入試関係）を持参してきていただいております。必要な方は糊フローリックの隅田さんが預かっていますので当日持ち帰れなかった方は申し出てください。今回参加された方々は以下のとおりです。文責 梶野

島重章先生、
1期(川上速水)、2期(梶野良夫、片桐隆、加藤孝二郎、村上哲次、渡邊直省)、3期(今澄恒治、斉藤隆夫)、4期(広畑義和)、5期(西尾修一、森澤寿泰)、6期(橋本千代司)、7期(白方聡)、8期(西本能成)、19期(隅田孝弘)、28期(吉本忠浩)、34期(宮岡裕司)



「関西支部からのご挨拶」

関西支部長
駒井鉄工株ニュービジネス開発部長
佐賀 勉（2期生）

関西支部の皆様、時下ますますご清祥のことと、お慶び申し上げます。関西支部も217名を有する大組織となりました。同窓会のあり方また会員の方々の同窓会に対する認識を変革しようと、常々考えております。この紙面をお借りして、最近の私の仕事にかかわる事を御紹介させていただきます。昨年4月より新規事業を立ち上げる部門に配属になり、今までの営業部門と違い、まず何をしようかと考えました。高度成長の20世紀が終り、科学や産業技術の進歩をとげましたが、社会は大量生産、大量消費という大量の廃棄が進み、地球規模での環境汚染が、現実におこっておりこの問題を解決しなければいけないと考え、当社も、環境問題が新規事業のキーワードになるという結論を出した。現在は事業の柱の一部にすべく、多方面に情報収集を行っている最中です。それには広島工大のネットワークを広げ、お互い協力できる信頼関係を構築する事を心がけております。昨年7月頃経済産業省の外郭団体NEDOに、風力発電に関する風況調査を申請しましたら10月8日に、許可があり11月1日より風況調査開始する条件になっており、新規事業分野の為申請より認下、実施まで時間的余裕がなく、部門一同、困惑と焦燥感でいっぱいでした。

風況調査開始まで約20日、調査用H30mの鉄柱の設置、風況調査機器の調達、工程的に当社プロジェクトチームもお手上げの状況になり、何とかこの状況を打開しないと大変な事になるという思いでいっぱいでした。そんな時(株)きんでん、電力工事統括センター電力部営業チームリーダーの大野氏（土木2期）に電話をかけ、大変無理な問題を依頼しました。11月調査開始まであと10日の間に、調査用タワーを設置していただき、社長の面目を保っていただき、感謝の気持ちいっぱ

いでした。広島工大の同窓に誇りを持ち、色々な仕事を進めていく上で、情報、協力、信頼、が大変重要で、広工大の協力がいかに大切かを体験しました。

また、新規事業展開を進めていく中で、増岡組 竹内先輩、神崎組の坂井先輩、東洋建設平谷副支店長、この紙面をお借りしまして、お礼申し上げます。会員の皆様も一人一人友好の場となる同窓会を構築していこうではありませんか。最後に皆様の御健闘と御健康をお祈りしております。

「阿讃支部近況」

阿讃支部長

松山 憲一（1期生）

バブル崩壊以降、景気の低迷が続き、土木分野においても、ますます不況の波が激しくなる中、トンネルの出口はいつ見えるのか、どうすればたどり着けるのかと、広土会の皆様も何かと苦労されていると思います。

このような激動の社会の中でこそ、広土会の仲間が、お互い身近に向かい合い、酒（飲めない人はウーロン茶）を飲み、美味しい肴を食しながら、後輩へのアドバイスや土木工学科（現在の建設工学科）の今後の有り方、土木社会の抱えている問題、そして趣味・娯楽の話など、楽しく語らい、心を癒やすことが望まれるのではと思います。

そんな中で、昨今の土木不況脱出の糸口を見つけることもできるかもしれません。

昨年（2010）年には、広土会広島支部のご配慮による「広土会合同ゴルフコンペ」に参加させていただきました。ゴルフ好きの私には、仲間と楽しく過ごすことができ、最高の一日でした。（ちなみに、私の結果はB・Mでしたが。）

広土会阿讃支部では、支部の会を昨年6月に持ちました。

あいにく、極小人数の会となってしまいましたが、話は盛り上がり、広土会会員情報を1丁活用できないかとか、会員の学生時代の思い出や近況話、退職後の第二の人生についてなど、楽しく語り合うことができました。

今回は、より多くの会員のご参加を望んでいます。

阿讃支部の会員の皆様、どうぞよろしく願いします。

ところで、香川県（讃岐）では、平成15年度組織改正で、観光交流局を設置し、県のイメージアップなどを含めた総合的な観光振興策を展開することとしています。最近「さぬきうどん」が全国的ブームとなっており、観光の起爆剤になるのではと期待されています。

「さぬきうどんバスツアー」に参加したり、飛行機の時間待ちでのタクシーを利用した「さぬきうどんめぐり」をする県外のお客さんも多くいるということですよ。

広土会会員の皆様も、ぜひ「さぬきうどん」を食べに来てください。広土会阿讃支部の徳島県と香川県共々によろしく願いいたします。

本年が、明るい元気の出る年になるよう念願し、広土会会員皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます。

「雑感」



広島県東部支部
甲奴町議会議員
近藤 勉（3期生）

広土会の皆様におかれましては、新しい年を迎え、心新たに御活躍の事と御推察申し上げます。早いもので卒業し32年が経ち54歳になりました。「人生50年化転のうちをくらぶれば…」まだまだ元気なので卒業後50年と考えることにしました。

私達の時代は高度成長期でもあり又経済・景気対策は公共事業の時代でもあり、3Kと言われながらもK・D・K（勘と度胸と経験）でやってこれました。でも今、私達を取り巻く建設業界は公共事業の削減、経費節減等々非常に厳しい状況が続いています。それにより、大手中小企業の倒産も続いており先行見通し

が立たないのが現状です。近隣の市町村の財政計画をみても、今後10年間で普通建設工事費は半減するだろうと予測されます。我々土木屋にとっては益々厳しい状況になって来ますが、生き残りの方法を模索し、早めの対策を講じておかなければ企業存続も難しいでしょう。自称「地球の彫刻家」（巷間では土方という）としてあちこちに作品が残っているのが唯一の自己満足です。

今県内は昭和の大合併で合併特例法の優遇措置にあやかり、各地で合併の機運が盛り上っています。一昨年「小さくてもきらりと光る町」を創ろうと住民発議による郡内合併を目指しましたが、他町の事情により成就しませんでした。私が住んでいる甲奴郡甲奴町は三次市・双三郡・甲奴町と1市4町3村で合併すべく法定協議会が進んでいます。3300人そこそこの町が4万人の市と合併し新市が出来ます。そこで私は今後の人生をどう生きるか、育ててくれた地域社会にどう貢献するか、NPOを立ち上げて地道に地元へ恩返しをと考えていたところ、昨年の11月の選挙で皆様のお陰により議院となり、合併へ向けての取り組み、合併後の我が町のあり方を考えています。

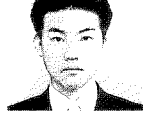
合併により地方分権が進み、自己決定・自己責任のもと豊かな町、住んでよかった町を目指します。皆様のご意見をお聞かせ下さい。

甲奴郡甲奴町小重2166

Email:kondou@mx4.tiki.ne.jp

今後共御指導賜りますと共に、広土会の会員皆様の益々の御活躍と広島工業大学の更なる発展をお祈りします。

「若い力」



広島県北支部
和田 賢（29期生）

皆さん、毎日の業務ご苦労様です。広島県北支部（29期卒）の「和田 賢」と申します。

まず初めに、私の自己紹介を簡単にさせていただきます。学部卒業後、広島工業大学大学院に進学してもらい、2年間勉強に励んだ後1?に、何とか「株式会社フジタ」に拾ってもらいました。大阪支店土木部へ配属になり関西近辺の現場を転々とした後、広島支店に転勤になりました。そして今年の1月からは、広島県高田郡高宮町に本社を構える「株式会社和田組」でお世話になっております。

さて、我が県北支部には和田一雄支部長をはじめとし、多くの大先輩方がいらっしゃいます。私は今回初めて支部行事に参加させてもらいましたが、まず最初に感じたことは、なんと皆さんの賑やかなこと…。県北支部には何処にも負けない活気がありますよ～！噂には聞いていましたがまさかこんなに賑やかとは本当に驚きました。

ところが、もう一つ感じたことがあります。それは、もっと若い世代がたくさん集まれば、もっと盛り上がるだろうなということです。県北支部において、これからの繁栄のキープポイントは「若い力」だと思います。これは、他支部においても同様の事だと思います。これからの各支部の「活気度」を表すバロメーターは「若い力」ではないかと思います。

県北地域で活躍しておられる若人の皆さん、ぜひ一度県北支部の行事に参加してみてください。そして、広土会県北支部の更なる繁栄の為に皆で盛り上げて行きましょう！！

「来たれ！若人！」 「見せよ！若き力！」

「広島支部長挨拶」



広島支部長
河原 不二男（3期生）

平成14年6月20日の役員会におきまして、広土会広島支部長を仰せつかりました河原でございます。広島支部という大きな組織のお世話をさせてもらうことになり、不安で一杯ではございますが、よろしくお願いいたします。

前前任の山下先輩（広島市役所：1期）は、支部結成時から25年間支部長を努められ、その中でも、自ら

先頭にたたれた昭和63年の20周年記念事業では、大変ご尽力をいただき、広土会の存在を強くアピールされました。

また、前任の景山先輩（広島県庁：1期）は、平成8年から6年間支部長を努められ、その中でも平成10年には、全国の3千5百余名の広土会会員を対象に、実行委員長として30周年記念事業を企画され、当日は700名を越える会員の出席のもと広土会の結束を図られました。

私は、広島支部長になりまして、まだ日が浅く、広島支部のことを十分把握してはおりませんし、これまでの支部長さんの実績を見ますと、余りにも偉大すぎ、とても真似のできる器ではございませんが、広土会の目的にあるとおり、土木技術の向上と親睦を図るため、役員の皆様方のお力を借りながら、微力ではございますが、全力を尽くしてまいりたいと思っておりますので、広土会会員皆様のご協力とご支援をお願いいたします。

なお、7月12日には、広島支部及び広島西支部の共催におきまして、広島県内在住者を対象としました、35周年事業を計画しております。詳細につきましては、別途案内があると思いますが、会員皆様のご協力とご出席を賜りますようお願いいたします。

最後に、今回新たに役員となりました方々の名簿を掲載しましたので、私共々よろしく願いいたします。

広土会広島支部役員

支 部 長	河原不二夫（3）	広島県
副支部長	徳山 宏（2）	広島市
	三浦 勝行（3）	岡山陽技術コンサルタント
	井上 秀昭（6）	広島県
会計監査	石井 卓郎（2）	広島市
	奥川 浩（3）	岡山広島構造技研
幹 事 長	狭戸尾 浩（2）	広島県
副幹事長	長谷川和志（6）	株式会社エムエー
幹 事	大志茂 孝（1）	株式会社
	五弓 莞（2）	西日本土木工業株式会社
	尾山 正継（2）	小松建設工業株式会社
	出口 俊実（4）	宮川興業株式会社
	寺本 章（5）	富士設計コンサルタント株式会社
	大利 正生（7）	広島ガス開発株式会社
	古田 潔（8）	アルファコンサルタント株式会社
	大野 平和（8）	株式会社光組
	竹村 昌徳（12）	株式会社鉄工株式会社
	広本 忠典（15）	株式会社ニュー技術
	村中 昭典（16）	広島工業大学
	竹内 秀一（16）	西日本調査設計株式会社
	舩繁 昌志（17）	マシノ工業株式会社
	中村 透（17）	中村砕石株式会社
	広津 元基（21）	株式会社広津産業
	崎 将智（27）	広島工業大学専門学校
会 計	行迫 孝治（25）	広島県
事務局長	茅野 典男（6）	広島県
副事務局長	牧野 克真（26）	広島県
顧 問	竹内 勝喜（1）	株式会社増岡組
	景山 敏則（1）	広島県

「2年目の広島西支部」

広島西支部

宮田 数行（4期生）

支部発足後2年目の活動は、船釣り、ゴルフなど親睦行事が中心でした。私自身はソフトボールの試合と重なって参加できませんでしたが、他支部の皆様も参加もあり、会員相互の親睦を深めています。

6月14日、支部全会員を対象に開催した懇親会の参加人数は20名弱と多くはありませんでしたが、15年度も開催することとしています。役員一同、多くの参加を願っていますので、初めての方も気軽にご参加ください。

7月12日に開催予定の「平成15年度広島支部総会（広土会35周年記念）」につきましては、西支部役員も一緒に準備していますので、この記念行事へのご参加もお願いします。

長引く不況の中、生活環境も大きく変転していますが、「広土会」の発展のために、微力ではございますが

努力しますので、広島西支部を今後ともよろしく願います。



「愛媛県支部長挨拶」

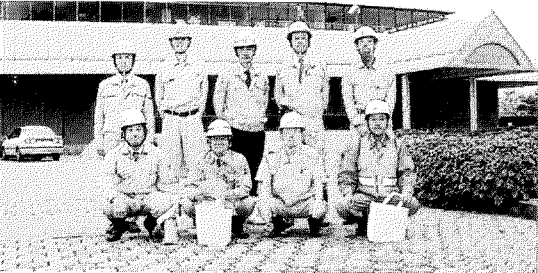
愛媛県支部長
中下 元夫（6期生）

広土会、会員のみなさま、厳しい時代が続いておりますが、いかが御過ごしでしょうか？
私も愛媛県支部は、現在、会員が350名程度になっておりますが、みんな仕事におわれて、連絡が行きとどかないのが現状です。ですが、昨年の12月23日に、平成14年度の支部総会を、19名の出席で、5年ぶりに松山で、開催する事が出来ました。やはり、久しぶりに、みんなと会ったら、なつかしく、いろいろな話が出来、有意義に、過ごせました。今の時代だからこそ、広土会の会員どうして話をして、何かの活路を見い出して行くのが、寛容ではないかと思います。いろいろな意味で、危機をチャンスに変えて行く様に、頑張らなくてはならないと思います。
私も、愛媛県支部も、連絡を密に取りながら、この厳しい時代を乗り切れる様に努力したいと思います。
会員のみなさんの御健勝、御活躍を心より、御祈ります。

「島根県支部の活動」

島根県支部長
小糠 弘昭（2期生）

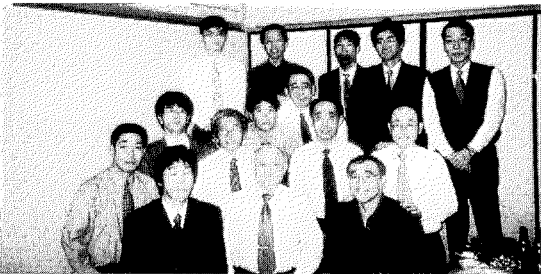
広土会の会員の皆さんには、ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。
島根支部は現在約90名余りの会員数であります。近年は毎年支部総会を開催していますが、参加者はほぼ同じ顔ぶれて、人数も15人から20人程度の参加者となっています。
H13年11月には総会に合わせ、工大の宮崎先生に講師をお願いし、技術士の講習会を行って頂きました。さらに、出席者全員で職務や苦労話などの意見交換会も行い、島根支部としては、はじめての研修会でしたが大変有意義な会となりました。
昨年4月、役員会を開き14年度の事業計画を打ち合わせた結果、会員が携わっている工事現場の視察計画と、現在、中国の長江で建設中の巨大大事業三峡ダム工事により、上流の山水秀麗な長江三峡の名勝古跡が水没し、今年限りで見られなくなるので、是非視察に行こうということになりました。早速、各計画について、会員の皆さんに参加を募って、実施したのでその概要を報告します。
工事現場の視察は7月に9名の参加を得て実施しました。中国電力㈱島根立地調査事務所の中本副所長さんのご協力により、島根原子力発電所への主要道路である既設のトンネルとトンネルの谷間部を改良土カルバート工法により一たん盛土を行った後、掘削して一つのトンネルにする珍しいトンネル接続工事現場と、3号機の建設計画等について案内と説明を受けました。



H14. 7 工事現場視察(島根原子力館前)

中国三峡ダムの視察は10月25日から29日の間、4泊5日の工程で参加者は6名でした。初日は岡山空港から上海へ、さらに空路、長江三峡の入り口の都市湖北省宜昌市着。
2日目は、長江の大峡谷を流れる長江三峡下り。約200kmを高速船往復10時間の船旅で大自然の渓谷美を

満喫。途中白帝城で下船し、蜀の皇帝劉備を祀る白帝廟で、我が子劉禪を諸葛孔明に託す劉備託孤の塑像等を見学。
3日目は治水と発電を主な目的とした三峡ダムを視察。ダムの規模は総貯水量393億㎡（内洪水調節容量221.5億㎡）で、日本のダムの総貯水量の約2倍である。ダムの堤頂長2,309m、高さ181m。発電所は70万kW×26基（最大出力1,820万kW）の水力発電により年間発電電力量847億kWhになり、これは中国電力㈱の販売電力量の約1.5倍に匹敵し、中国の全電力量の約一割に相当する。
なお、現場の案内は、日本企業が唯一安全管理を担当している前田建設工業の竹内所長さんにお世話になりました。ダム見学後は、武漢まで約300kmを高速道路で移動、そして空路上海へ。
4日目は蘇州と上海の観光、5日目は空路日本へ。東京の人口より多い1,600万人の都市上海、目覚しい経済発展を遂げる超大国中国の底力に、ただただ感心するのみでした。天候にも恵まれ大変有意義な視察をすることができました。
また、11月30日には、島先生をお迎えし14年度の支部総会を盛大に開催しました。



H14.11.30 支部総会

最後に広土会の発展と会員の皆様のご活躍を祈念しまして島根支部からの報告とさせていただきます。
広土会島根支部役員

H13年11月現在		
支部長	小糠 弘昭(2期)	島根県企業局開発課
副支部長	佐々木憲児(2期)	金城町役場
	田辺 安男(5期)	隠岐支庁土木建築局
幹事	安達 昭夫(3期)	松江土建㈱
	松浦 繁徳(5期)	島根県土木部河川課
	○内田 誠一(7期)	徳畑建設㈱
	磯田 稔範(8期)	竹下技術コンサルタント㈱
	原 裕美(10期)	島根県出雲土木建築事務所
	○松前 壮(12期)	カナツ技建工業㈱
	池田 稔(18期)	カナツ技建工業㈱
	吉岡 悟(22期)	㈱藤井基礎設計事務所
	○平野 昌明(23期)	カナツ技建工業㈱
(会計)	上村 直樹(24期)	島根県木次土木建築事務所
		頓原出張所
	○石倉 貴光(26期)	松江市役所
会計監事	福田 滋(6期)	島根県土木部砂防課
事務局	カナツ技建工業㈱	
	○印は新規役員	

支部長会議報告



平成14年度広土会総会・第11回支部長会議開催報告

広土会副幹事長・株ニュー技術
廣本 忠典（15期生）

平成14年度広土会総会・第11回支部長会議が、平成14年8月3日(土)午後3時からひろしま国際ホテルで開催されました。平成12年から、広土会は、運営の主体を学生から卒業生に移管し、毎年7～8月に広土会支部長会議と併せて総会が開催されています。当日は、広土会の役員や各支部の代表者28名が出席されました。まず、島広土会会長の挨拶から始まり、出席者自己紹介の後、以下の議題で活発な討議が行われました。
◆ 平成13年度会計報告・事業報告
会計の村中氏（16期生）より平成13年度の収支決算報告及び広土会開催事業について、詳細な説明がありました。その後、監査役の石井氏

- （2期生）より監査の結果会計処理は適正になっている旨の報告があり、承認されました。
- ◆ 平成14年度広土会役員選出
島会長より平成14年度の広土会役員（案）の提示があり、下記のとおり承認されました。
《平成14年度広土会役員》
 - ・会 長 島 重章(広工大)
 - ・副 会 長 岩井 哲(広工大)
 - 徳山 宏(2期)
 - 河原不二夫(3期)
 - ・幹 事 長 狭戸尾 浩(2期)
 - ・副幹事長 三浦 勝行(3期)
 - 廣本 忠典(15期)
 - ・幹 事 大志 茂孝(1期)伊藤 秀敏(2期)
 - 奥川 浩(3期)寺本 章(5期)
 - 井上 秀昭(6期)長谷川和志(6期)
 - 大和 正生(8期)大林 眞(12期)
 - 竹村 昌徳(12期)舩繁 昌志(17期)
 - 林 憲治(30期)
 - ・会 計 村中 昭典(16期)
 - ・監 査 役 宮崎 祐助(広工大)
 - 石井 卓郎(2期)
 - ・支 部 長 関東支部 梶野 良夫(1期)
 - 関西支部 佐賀 勉(2期)
 - 岡山支部 青江 邦夫(1期)
 - 島根支部 小糠 弘明(2期)
 - 広島支部 河原不二夫(3期)
 - 広島西支部 宮田 数行(4期)
 - 広島県北支部 和田 一雄(4期)
 - 広島東支部 古谷秀次郎(1期)
 - 山口支部 渡辺 勉(6期)
 - 愛媛支部 中下 元夫(6期)
 - 阿讃支部 松山 憲一(1期)
 - ・学生役員 幹 事 長 福谷 大介(3年)
 - 副幹事長 久保 和也(3年)

- ◆ 平成14年度予算案・事業計画
村中氏より平成14年度の収支予算案及び事業計画について説明がありました。また、島会長より就職対策費、40周年記念事業積立金などの新規支出について詳細な説明があり、承認されました。
- ◆ 各支部活動報告
広土会には、関東から四国まで全部で11の支部があり、各支部の代表者からそれぞれの支部の活動について報告がありました。各支部とも親睦会や講演会の開催等活発に活動されていますが、事業参加者の減少や固定化などの共通な悩みを抱えておられました。
- ◆ その他
広島支部の河原支部長より広土会創立35周年を記念した広島支部総会開催の説明があり、各支部への協力要請がありました。また、広島西支部主催の広土会合同ゴルフコンペ開催の案内がありました。

会議後、別室にて懇親会が開催されました。会議に参加していない広島支部や広島西支部の役員なども加わり、総勢40名を超え、同窓生ならではの話題でおいに盛り上がりました。

技術士講習会



「三度目の正直なるか？」

株式会社フジタ広島支店
後藤 敏紀（8期生）

現在の様な社会経済情勢の中にあって、建設業を取り巻く環境は益々厳しいものになっており、建設投資額も毎年減少し、ピーク時の7割以下になっている。また、毎年土木系の学科を出た学生が数多く排出されているが、土木技術者数が過大となり、余ってきている。
そうした環境の中で技術屋として今後生き残るためには個人の能力（技術力）を高める必要があり、その尺度として資格の取得が考えられる。資格にも色々あ

るが、学生時代に橋梁工学の桜井先生が「技術士は技術屋の博士号である」と言われていたことを思い出す。また、社内においても技術士取得が奨励されており、身近にいた上司が合格したこともあって、受験してみようと思った。3年前のことである。

平成12年4月初めて願書を提出した。ところが、受験を志したのは良かったが、体験論文において何をテーマに書くか非常に悩んだ。もともと縁の無い資格と思っていたので、過去の業務において意識して準備したものは無く、技術的に取り組んだものとして、地下鉄工事等があった。しかし、10年以上前のことであり、新鮮さに欠けていた。そこで、先輩技術士の指導で、直近の現場で実施したことをテーマとして作成することにした。もともと合格は無理だと思っていたが、専門や建設一般の想定論文を含めて、内容の吟味もそこそこに受験を試みた。結果は当然不合格である。ところが、翌年2月の合格発表を新聞で見ると、高校時代の同級生や以前にJ・Vで一緒に仕事をしたS建設やK組の人がこぞって合格しており、この時、改めて本気で受験を決意した次第である。

平成13年4月、願書を提出すると同時に体験論文は、外部に添削を依頼、3回のやり取りでかなり良くなってきた。また、建設一般問題で3題、専門問題で6題程度想定問題を作り準備した。ところが、2回目の受験では試験制度が変わり、択一問題が加わり、どのような問題が出題されるのか見当もつかなかった。とりあえず、インターネットから建設白書のダイジェスト版を印刷し、その上辺を読んだだけで試験に臨んだ。論文はかなりの手応えを感じたが、択一問題では鉛筆を転がした部分がほとんどであった。

筆記試験合格発表の日インターネットで自分の番号を探すが無い。不合格であった。敗因は択一問題で、自己採点の結果9点しかなく、10点以上が合格とのことであった。この年も身近な同僚が合格しており、自分は合格しないのではと受験をあきらめかけていたところへ、広土会新聞で先輩の体験記事を読むこととなったのである。

平成14年4月10日の大安吉日に3度目の願書を出した。添付する写真も改めて撮り直した。心機一転である。

3回目となると多少要領を得ており、経験及び専門の論文は、7月頃からを暗記すれば良いと思い、建設一般及び択一問題対策を5月の連休から開始した。まず紀伊国屋書店で国土交通白書を購入し、隅々まで読むことから始めた。そうしているうち、広工大で技術士講習会が開催されていることを知り、幹事が同期ということもあって、参加させてもらうこととなった。6月、初めて参加した時、建設一般の資料をたくさんもらい、また宮崎先生に経験論文を読んでもらうことになった。このとき参加者の多くはかなり勉強が進んでいる感じで焦った。そして、さあこれから勉強しようと思った矢先、7月から布野村の下水道工事に配属となり、ウイークデイの勉強はほとんど出来なくなった。そこで休日に近くの公民館に行き、開館から閉館までひたすら書いて覚えることにした。7月、2回目の参加時に択一問題の勉強会が実施され、キーワードや出題の傾向を知ることが出来た。また、宮崎先生から「体験論文は面白いよ」との返事を頂き自信を持った。この時点で建設一般もテーマを絞り、想定論文を作成した。盆休みが勝負との思いで、そのほとんどを公民館に詰めて、国土交通白書の熟読と、体験及び想定論文をひたすら書いた。年をとるとなかなか覚えられず苦労した。

8月28日試験当日、女房の手作り弁当を持って試験に臨んだ。今回も択一問題が難しく、鉛筆を転がすことになった。後は運を天に任す思いで、広工大から帰路についた。

12月10日午後4時30分、東京新宿ワシントンホテルの一室で、面接試験官の前に座っていた。

三度目の正直なるか…?

技術士資格取得研修会

今日、建設産業を取り巻く社会的な情勢は厳しく、国や地方自治体の財政状況が益々厳しくなる中

で、より品質の高い、効率的な社会資本整備を求められています。このため、我々建設技術者は公共・民間を問わず、マネジメント能力や高い見識・技術力が不可欠となってきており、技術士資格の取得についてより一層の必要性が高まっています。

平成13年度から工大建設工学科で月1回技術士二次試験の資格取得研修会を開催してきました。これまでの実績は、平成13年度に6名の合格。平成14年度は3名が筆記試験に合格し、現在、口頭試験の結果発表待ちとなっています。

2001年度より技術士法が改正され、技術士資格試験も内容が一新されました。さらに今年度からは第一次試験の合格者（技術士補試験）でなければ第二次試験に受験できなくなりました。このため、今年度の研修会は第一次試験の対策を主に行い、また、第二次試験の受験資格を取得している人を対象とした研修会も併せて実施する予定です。その他、前年度は技術士第一次試験の研修会を試験前に1回だけ実施しましたが、今年度からは、以下の予定で内容を密にして研修会を実施します。

今年度のスケジュール

以下の予定が平成15年度の研修会を実施することとします。今まで何度も受験し落ちてきた人や初めて受験する人も研修会に参加して、皆で難関を突破しましょう。

○2月：広土会を通じて、広島市内在住者を中心に、研修会参加の呼びかけを行う（一次、二次の受験予定者数の確認）。

○3月下旬：一次、二次受験者合同の総会及び第1回研修会（ガイダンス）を行う。…幹事の選出、今後の取り組みの予定確認

○4月～8月：第2～6回の計5回の研修会を毎月中旬の土曜日午後開催（研修会後にはささやかな懇親会を催し会員相互の親睦や情報交換を行う）。

○8月：第二次試験（筆記）

○9月：1次試験論文対策（添削指導）

○10月：第1次試験

参加希望者は下記に連絡してください。

（8期 札埜克尚 連絡先fudano-k@city.hiroshima.jp）

（12期 竹村昌徳 連絡先takemura@komai.co.jp）

「4期卒業30周年」

我々広島工業大学土木4期は、昭和47年3月に120数名で卒業し、これまでに10年、20年、25年と3回行い21世紀最初の「卒業30周年記念祝賀会」を米国テロ、アフガン復興、拉致問題等世界が揺れ動く中、平成14年10月26日ホテルグランビアにて開催しました。

工業大学からは、在学時代お世話になった櫻井先生のご子息で、現在広島工業大学学長の櫻井先生、広土会会長島先生、大学を退職された鈴木先生が、出席してください、又県外からは、長崎の山本をはじめ、多くの同窓生が駆けつけてくれ、卒業生和田幹事長の挨拶により、盛大に開会しました。

櫻井学長は、在学当時居られなかったのですが、当時の櫻井先生の面影と重なり、広土会設立の話等楽しく語り又、島先生からは最近の大学情報を聞き母校への愛着を新たにしました。

祝賀会では、退職されても在学当時から変わらぬ若さでますますお元氣な鈴木先生からは、当時を思い出すスタイルで、お話がありました。又同級生では最近の経済状況の厳しい会話もありましたが、時が経つにつれ当時を懐かしく思い出し、楽しいひと時を過ごす事が出来ました。

次回35周年は、我々も還暦に近ずきますが、ますます元氣で、この不景氣を乗り越え再会しましょう。

最期に、準備委員の皆さん(荒谷、大政、橋高、村上)各氏には大変お世話になりました。 本田 健一



「広土会」創立35周年記念事業開催趣意書

広土会会員の皆様には、ますますご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

さて、ご承知のように、わが母校の土木工学科は、平成9年度に「建設工学科」と改名され、土木工学と建築工学を融合し、多方面で活躍できる技術者を育成しておられます。

「広土会」は、これまでの土木工学科のみならず、建設工学科の卒業生、在学生及び教職員で構成された組織であり、建設技術の向上、親睦等を図ることを目的に昭和43年10月に、現在の櫻井春輔学長のお父さん（故櫻井季男名誉教授）の発意により結成されたものでございます。

「広土会」は、現在、建設工学科内の本部をはじめ、全国各地に11支部を置き、会員数も4,000を越える大きな組織に発展しており、全国はもとより世界各地において、建設業界をはじめ数多くの分野で指導的役割を果たすとともに、社会・経済の発展に大きく寄与しているところでございます。

今回、「広土会」創立35周年記念事業を開催するにあたりましては、「広島支部」及び「広島西支部」が中心となりまして、広島県内及びその周辺を対象としまして、企画していただきました。

本来であれば、全国の皆様に参加していただくのが基本でございますが、全国の皆様方には、前回の30周年記念事業（平成10年7月）に引き続く、40周年記念事業（平成20年の予定）にご参集をお願いすることとしまして、今回は「広島支部」及び「広島西支部」の事業として開催させていただきます。

なお、当日は、平成15年度の支部長会議が開催され、引き続き、懇親会に関係者の皆様が参加されます。

つきましては、昨今の社会・経済情勢、特に建設産業を取り巻く環境は厳しい状況ではございますが、35周年記念事業が円滑に推進できますよう、会員の皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

広土会広島支部長 河原 不二夫

広土会広島西支部長 宮田 数行

35周年記念事業

日時：平成15年7月12日(土)
場所：リーガロイヤルホテル広島
記念講演会(17:15～18:15)
祝賀懇親会(18:30～20:30)
会費：1万円(1期～20期生)
6千円(21期～)
3千円(学生会員)

平成15年度支部長会議
日時：平成15年7月12日(土)
場所：リーガロイヤルホテル広島
時間：15:00～17:00

問い合わせ先：15期生 広本忠典

E-Mail：hiromoto.t@new-g.co.jp